

「ようきてちょーた」＝瀬戸弁で「よく来てくれたねえ」の意味。

編集：瀬戸市おもてなしボランティア
季刊誌作成チーム
発行：瀬戸市 まるっとミュージアム課

No.12 2009. 6. 1

ようきてちょーた瀬戸！

新緑に誘われて！

特集 愛・パークOPEN！

瀬戸万博記念公園

愛・パーク が3月20日オープンしました！

愛・パークは2005年の愛知万博を記念して、瀬戸会場の跡地に作られました。公園には天水皿TM、つばき園、モリゾー・キッコロ遊具、芝生広場、などがあり、万博の記憶を未来に伝えていく思いの、交流広場になっています。



行き方

* 徒歩で

愛知環状鉄道 山口駅から約2km 徒歩30分
リニモ八草駅から約1.5km 徒歩20分

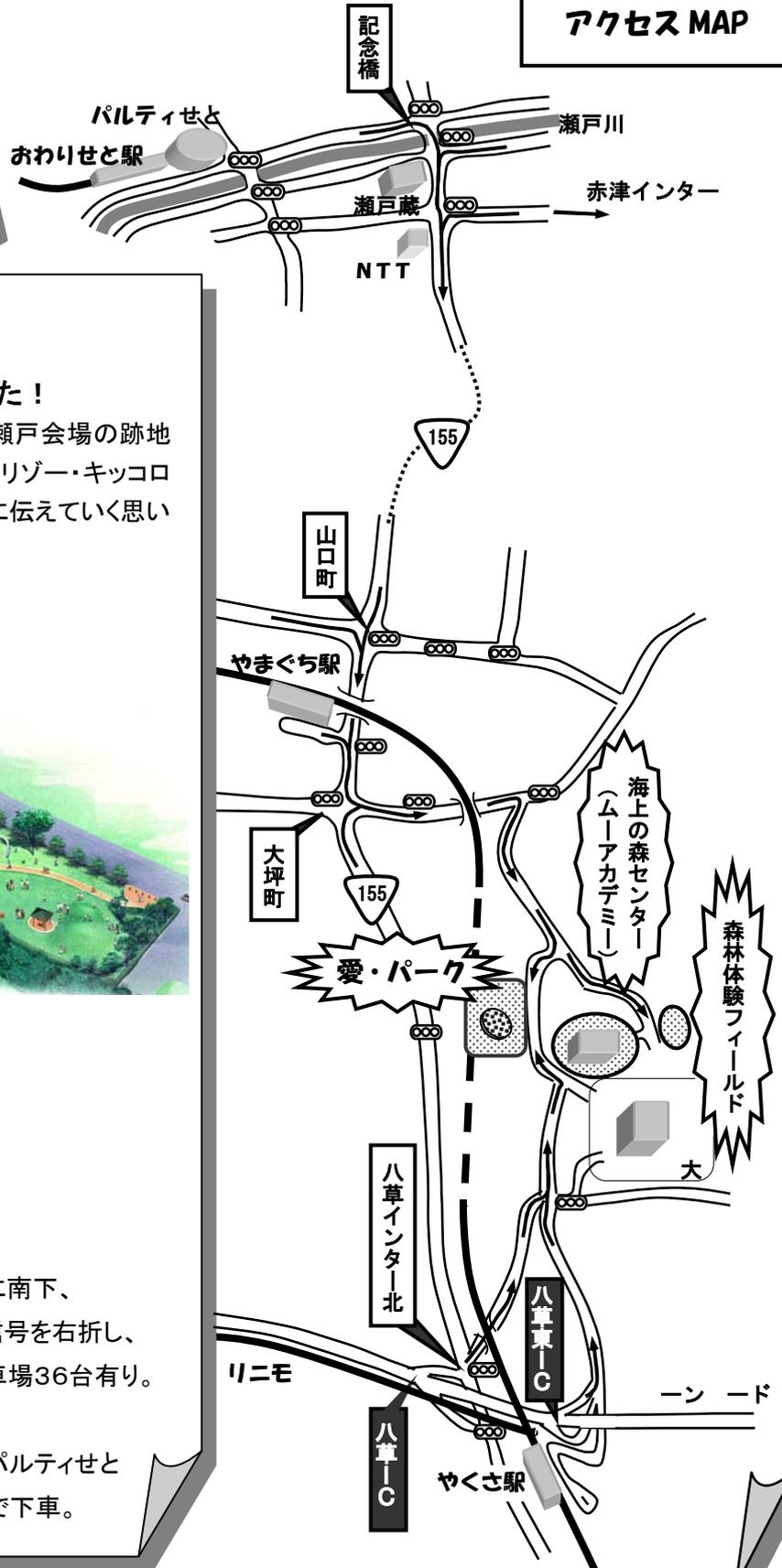
* 車で……尾張瀬戸駅から約5km 10分。

記念橋を右折し、国道155号線を長久手方面に南下、約4km進み、大坪町交差点を左折、2つ目の信号を右折し、4本目を右折すると、右手に公園がみえる。駐車場36台有り。

* バスで

瀬戸市コミュニティバス上之山線「瀬戸駅前」(パーティセと北バス乗場)から約25分乗車し、「愛・パーク」で下車。

アクセス MAP



愛・パーク

この公園の今後の姿について 瀬戸市都市整備課・横山課長にお話を伺いました。

Q・意味づけ、意義づけは？

A・愛知万博が閉幕して4年が経ちました。万博では市民ボランティアの活動が世界中から来た人々に受け入れられ感動を与えました。万博記念としてシンボリックなものをなにか残したい、博覧会の理念を継承する市民の活動・活躍できる場の一つとして瀬戸市の身の丈サイズの都市公園を作りました。愛称を公募により「愛・パーク」としたのも市民の皆さんで育て、つくっていく新しい交流の場にしたいからです。

Q・市民参加の公園を目指して、新しい公園利用を考えるのですね

A・公園の中央にある天水皿管理棟展示室（110㎡）はNPO法人や市民ボランティアが市民参加の行事の企画があるとき、（例えば、週末に子供たちの為の木工教室等）に貸し出します。自分たちでアイデアを出し合って活動をしていく空間として、多目的に使われるようにと検討しています。

公園の正面入り口の花壇を美しく飾っていただいたのは“花クラブピュア”の方々によるものです。今後は“花クラブピュア”の指導を受けた、沢山の“花ボランティア”が育て、四季折々に公園を飾ってほしいです。

Q・自然と環境に関しては？

A・自然エネルギーを活用しています。

- ・天水皿の上に降って貯まった雨水を貯水タンクに集めて、花壇の散水に使用しています。
- ・公園内に立っている小型の風力発電と太陽光発電は街路灯の点灯に役立っています。

Q・植樹がたくさんされていますね

A・万博会場の建設工事で樹木を伐採した後、森林回復に植樹する目的で100万本の森基金がつけられました。公園全体の木々が対象で、つばき園もそのひとつです。

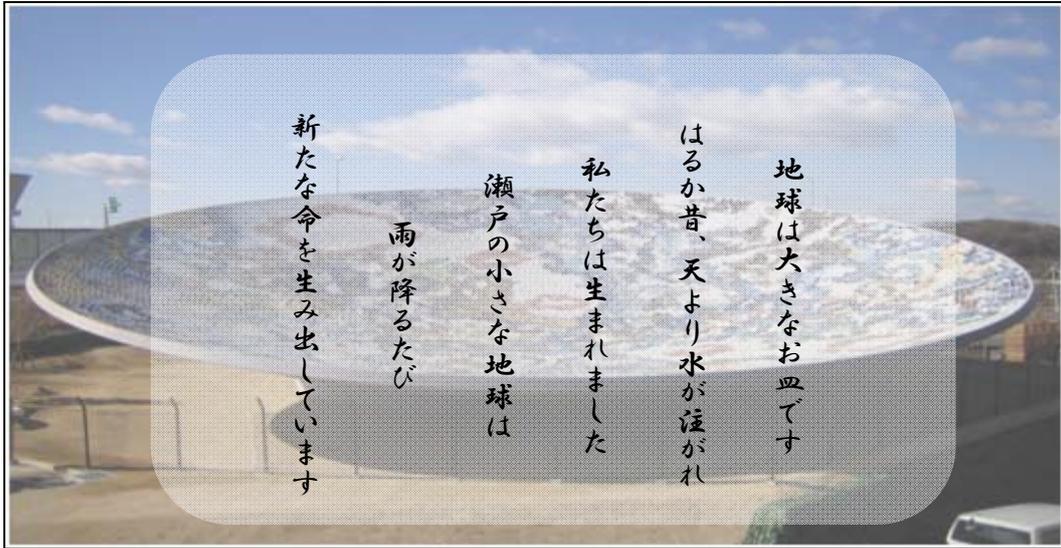
「つばき園」には瀬戸市の花「つばき」が100本以上植えてあります。これは“自然の叡智”をテーマとした環境博覧会「愛・地球博」の理念により「国際ソロプチミスト瀬戸」が提唱した「EXPO100万本の森基金」から生まれたものです。現在、世界中で「つばき」の種類は5000種ほど。その中で代表的で瀬戸市の気候、風土にあったものが植えてあります。花色は紅・白・桃・絞り・白斑・黄・金茶色など。花や葉の形、樹性もさまざまです。あなたのお好みの「つばき」を見つけに訪れるのも楽しいですね。

問い合わせ先/瀬戸市都市整備課：0561-88-2726

愛・パーク事務室：0561-82-0189

愛・地球博のエコの精神をつなぐ

天水皿ⁿ



※天水皿ⁿ(てんすいさら えぬじょう)…愛知万博構想発祥の瀬戸会場に出展されたモニュメント。天の水を受ける皿「地球」を意味し、n乗は世界陶器産地から集まった皿と子供たちが描いた皿 30,000 枚を示しています。

管理棟の屋上には天水皿を見る デッキがあります

管理棟屋上のデッキから見る天水皿は迫力があります。また、そこからは広い尾張の平野、瀬戸の町並みを一望することができます。ベンチも置いてあるので、時間を忘れて景色を楽しみ、ゆったりと過ごすことができる空間になっています。



愛・地球博の瀬戸会場のシンボルだった天水皿と子供達、そして大人にも大人気のアイドルだったモリソーとキッコロと一緒に写真撮影できる絶好のスポットです。



なつかしい～！
お孫さんと楽しんだ思い出の場所。
愛・パーク来訪者。



あいち海上の森センター

ムーア카데미

愛・パークの近くには、愛・地球博「瀬戸愛知県館」の改修した施設があります。万博のテーマ「自然の叡智」を永く継承するための「あいち海上の森センター・・愛称ムーア카데미・・」で、自然と人間のかかわりを学ぶ鍵「参加型体験学習」がいろいろプログラミングされ、里山の魅力を発信しています。センターの展示室で海上の森の自然を楽しく学ぶことができます。

・・・ 本館前のピオトープでは ・・・
「メダカ」が気持ちよさそうに泳いでいます。これからの季節は「ヒメぼたる」が観察できる幻想的な空間に変身します。又、真っ赤で繊細な「はっちょうトンボ」などが観察でき、センター内の遊歩施設で万博施設「窯の歴史館」「繭玉広場」「物見の丘」をめぐるながらの草木を見て季節の移ろいを感じるのも楽しいものです。

時間に余裕があったら、センターを出て海上の森のハイキングがお勧め、すがすがしい空気にふれ気分一新を請け負います。



注：愛・パークとムーア카데미の間がまだ未整備のため約7～800m回り道になります



森と遊ぼう！



海上の森幼児森林体験フィールド



アベマキ・コナラなどの落葉樹が連なる海上の森は、子どもたちが自然の森をそのまま体験できる楽しいフィールド。背の高い木にかけられたロープで斜面を全力でよじ登る、やさしい坂をすべり下りたり、転んだり。そして、落ち葉やチップ材が敷き詰められた“ふかふか”の山道で寝ころんでみる・・・すると、森のさまざまな生きものの息吹を感じることができます。木や葉、風のささやき、鳥たちのさえずり、昆虫の動き、花の香り、木の根っこや石の祈り・・・

森は人に力を与えてくれるところです。ぜひお子さんと一緒に過ごして下さい。

*この季刊誌「よきてちよーた瀬戸！」は、瀬戸市おもてなしボランティアの季刊誌チームメンバーが、ボランティアの目線で瀬戸の観光情報を取材し、作成しています。ぜひ、誌面に対するご意見・ご感想を事務局までお聞かせください。なお、この季刊誌は瀬戸市ホームページからダウンロードができます。(http://www.seto-marutto.info/kikansi/)

《瀬戸市おもてなしボランティア事務局》

瀬戸市役所 まるっとミュージアム課 〒489-0813 瀬戸市蔵所町 1-1

TEL: 0561-88-2541 FAX: 0561-97-1557 E-mail: marutto@city.seto.lg.jp